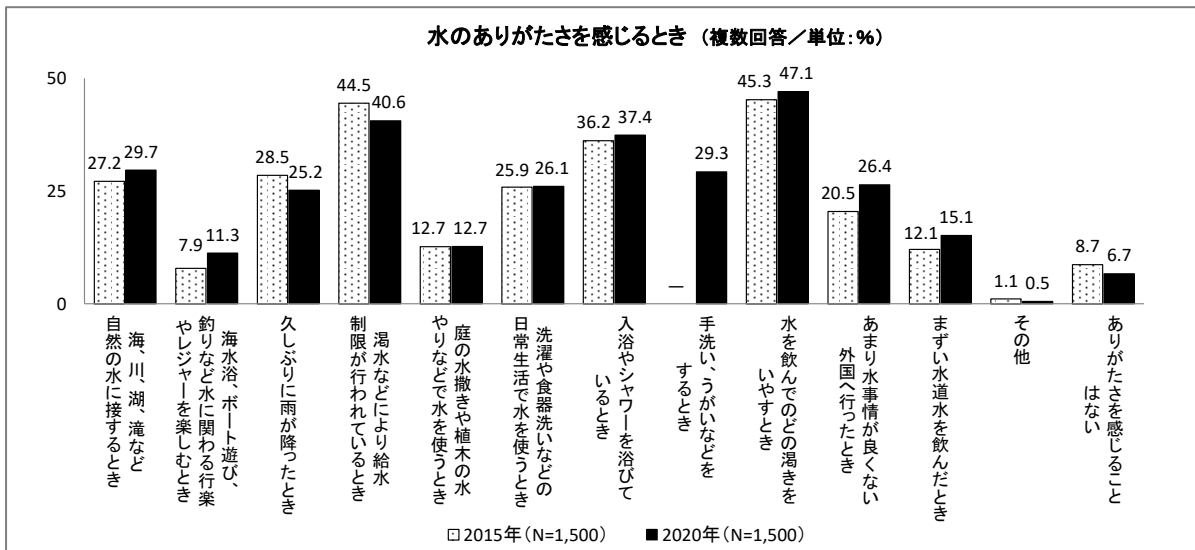


Q.水のありがたさを感じる時は？（11択+その他+感じることはない）

◇「手洗い・うがいなどをするとき」は約3割。

水のありがたさについて、今回新たに「手洗い・うがいなどをするとき」の選択肢を加え、2015年以来の調査を行ったところ、1位「水を飲んでのどの渴きをいやすとき」（47.1%）、2位「渇水などにより給水制限が行われているとき」（40.6%）、3位「入浴やシャワーを浴びているとき」（37.4%）、4位「海、川、湖、滝など自然の水に接するとき」（29.7%）、5位「手洗い・うがいなどをするとき」（29.3%）となりました。約3割の回答があった「手洗い・うがいなどをするとき」については、この数値がコロナ禍でありがたさを実感したことによるものなのかを推察するには、継続的な調査で推移を注視する必要がありそうです。



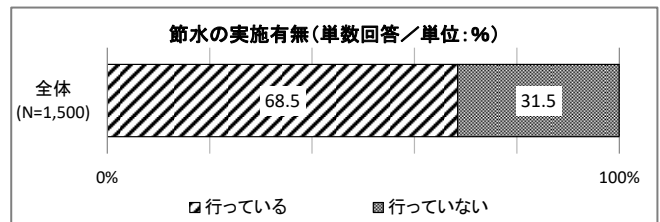
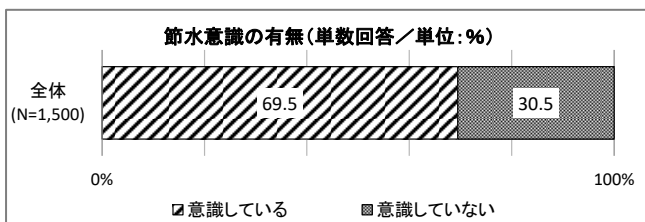
Q.節水を意識しているか？（2択）

Q.節水を実施しているか？（2択）

◇意識と行動、ともに7割近くの人が「している」。

節水調査については、生活者における節水への意識と行動の明確化を目的に、昨年より新たな設問で調査を開始しました。まず、節水を意識しているかについては、全体の7割近く（69.5%）が「意識している」と回答し、昨年（67.6%）とほぼ同様の結果でした。

節水の実施有無については、「行っている」に約7割（68.5%）の回答があり、こちらも昨年（66.7%）からの大きな増減はありませんでした。

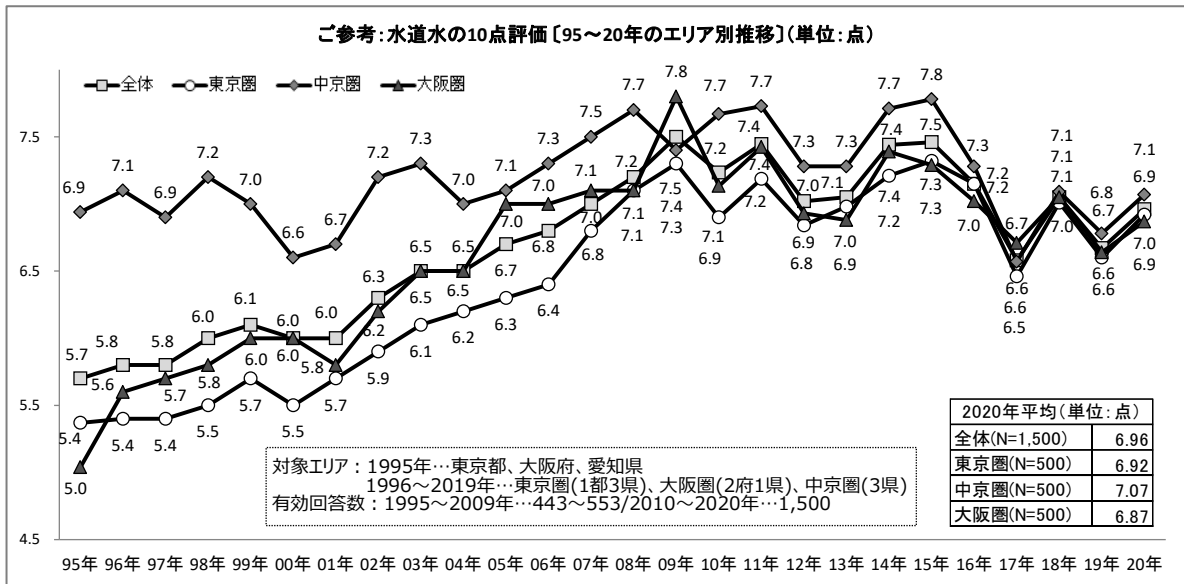


水道水に関する意識

Q.水道水を10点満点で評価すると？（0～10の整数を自由回答）

◇全体、居住地別ともに平均点アップ。中京圏は再び7点台に。

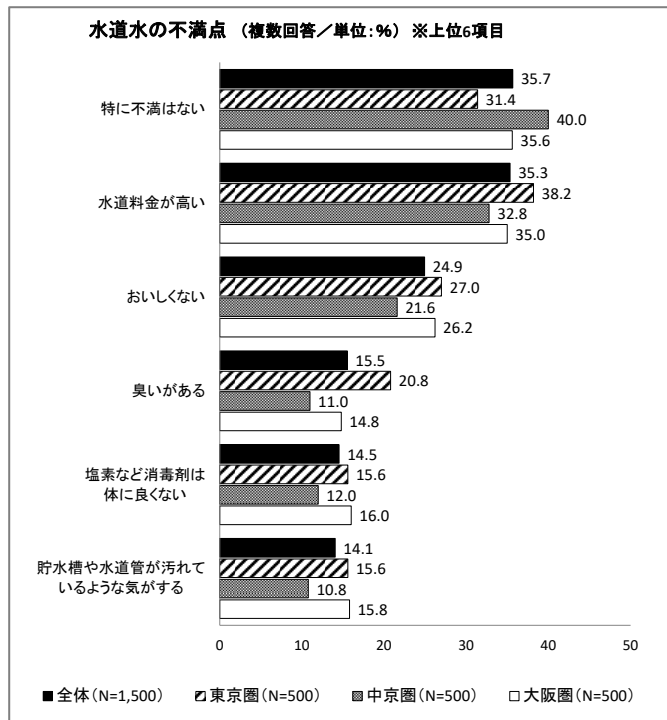
水道水の10点満点評価は、一昨年に全体の平均点が7点台を回復したものの、昨年は6.67点に低下しました。今年の結果は、全体の平均が0.29ポイント増の6.96点となり、居住地別でも東京圏が0.32ポイント増の6.92点、中京圏が0.29ポイント増の7.07点、大阪圏が0.23ポイント増の6.87点と、いずれも上昇しました。



Q.水道水について不満を感じていることは？ (8択+その他+特に不満はない)

◇**全体の1位は「特に不満なし」。**東京圏では「水道料金」がトップ。

水道水への不満については、「特に不満はない」(35.7%)が全体の1位となり、昨年トップだった「水道料金が高い」(35.3%)と順位が逆転。以下、3位「おいしくない」(24.9%)、4位「臭いがある」(15.5%)、5位「塩素など消毒剤は体に良くない」(14.5%)と続きました。また、居住地別では、中京圏・大阪圏は「特に不満はない」がそれぞれ40.0%・35.6%で全体と同様1位でしたが、東京圏は「水道料金が高い」(38.2%)が「特に不満はない」(31.4%)を上回りトップでした。



水と災害

Q.日頃不安や心配に感じていることは？ (13択+特にない)

◇「給水制限や断水」「水難被害」「浸水被害」が増加。

日頃不安や心配に感じている事柄について、昨年と同様の項目を提示して聞いたところ、1位「給水制限や断水」(40.7%)、2位「飲料水や生活用水の悪化」(32.4%)、3位「水難被害」(28.1%)、4位「浸水被害」(26.3%)、5位「化学物質による水質汚染」(25.6%)で、昨年5位だった「マイクロプラスチックによる海洋汚染」(24.5%)が6位でした。

昨年と比較すると、「給水制限や断水」「水難被害」「浸水被害」が増加している一方で、「飲料水や生活用水の悪化」「化学物質による水質汚染」「マイクロプラスチックによる海洋汚染」といった、主に環境問題にかかわる項目の数値は減少しました。